

誰もが“つながる” ～新しい福祉のかたち～

多世代共生型施設のオープンにむけて ～Vol.6～

気持ちがつながる、笑顔がつながる、地域社会につながる
「誰もが“つながる”多世代共生型施設をコンセプトに
 新しい福祉のかたちを追求し、地域共生社会を実現します。



Web [はこちら](#)から

多世代共生型施設は、子どもから高齢者、また障がいの有無に関わらず、丸ごと誰もが
 がつながり、支え合うことで生きがいを持って安心して暮らすことができる地域社会を
 つくりだすものです。

今号では、その中の一つの機能である「生活介護事業所」についてご紹介します。

「生活介護事業所」とは

介護を必要とする障がいのある方に対して、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上を目的に様々なサービスを提供し、障害のある方の社会参加と福祉の増進を支援します。



めざす姿

- 重度身体障害者の受け入れができる事業所として、理学療法士をはじめとした専門職を配置した体制をとることで、利用を通じて機能向上をはかり、状態や特性等に合わせた活動領域を増やしていけるよう支援します。
- 児童発達支援センター等と連動し、継続したりハビリの機会を提供するほか、入浴、排泄介護、レクリエーション、創作的活動等様々な場面で同一体位にならない工夫を行いながら、いつまでも在宅で暮らし続けることができるよう支援します。
- 隣接する公園への散歩や、ボランティア等の協力による行事实施に取り組むなかで、他者と日常的に交流できるよう努めます。多様な方との出会いの中で、理解者が増え、地域の中で安心して生活ができるよう支援します。

